

社会貢献活動

明治安田生命は、企業市民として、真に豊かな社会の実現に向けて、広く社会貢献活動に取り組んでいます。その取組みにおいては、会社の実施する事業、財団等の実施する事業および従業員参加により推進する事業の三つを柱と位置付けています。

子どもの健全な育成をめざして

次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに貢献してまいります。

地域社会への貢献をめざして

地域の住民のひとりである従業員もボランティア活動を通して地域の活動に参画しています。

関連財団等の活動

当社の関連財団等も、幅広い社会貢献活動をしています。

社会貢献活動の基本的な考え方

- ・ 子どもの健全育成に貢献します。
- ・ 社会福祉分野の活動を展開します。
- ・ 従業員参加型の地域貢献活動を推進します。
- ・ NPOなどの市民参加型グループとの連携を重視します。

子どもの健全な育成をめざして

子どもの明日 応援プロジェクト

お客さまの「家族への思い」を支えることが生命保険会社ならではの社会貢献と考え、「子どもの明日 応援プロジェクト」を通じ、次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに取り組んでいます。

「子どもの命・安全を守る」 地域貢献活動



従業員が担当地域等での営業活動中に子どもの危険を察知した場合は、最寄りの警察に連絡を行なう等の活動を全国で展開しています。

地域安全マップづくり教室



子どもたちが、犯罪が起きやすい「場所」を自ら見極め、危険を回避できるようにするための教室を全国で開催しています。

「愛と平和のチャリティーコンサート」と 「未来を奏でる教室」



「愛と平和のチャリティーコンサート」と小・中学校での音楽授業「未来を奏でる教室」を開催しています。チャリティー募金は(公社)日本フィランソロピー協会を通じ全国各地のNPO等に寄付しています。

海の環境工作教室



従業員や地域のお客さまがボランティアで海岸清掃を行ない、収集したゴミ等の漂着物でアート作品を制作する海の環境工作教室を実施しています。

ふれあいコンサート



ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげき氏が全国各地の特別支援学校を訪問し、楽しい手作りコンサートをお届けします。

あしながチャリティー&ウォーク



当社役職員が親をなくした子どもたちの「あしながさん」となって、ウォーキングやチャリティー募金を通じて、子どもたちの進学支援や心のケア支援活動を行なっています。

「黄色いワッペン」の贈呈



新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」の贈呈を行なっています。

チャリティーイベント



コンサート等のチャリティーイベントを開催し、会場でのチャリティー募金をアジアの子どもへの支援活動等に寄付しています。

Hello! Baby 奨学金プログラム



少子化社会対策に資する社会貢献活動として、「助産師をめざす人のための奨学金制度」を支援しています。

全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクールの協賛



「全国小中学校環境教育研究会」が主催する絵画コンクールに協賛しています。

三菱アジア子ども絵日記フェスタ



三菱広報委員会で実施している「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」に参画しています。

子どもの明日 応援プロジェクト

当社では、地域・社会貢献活動に継続的に取り組むなか、特に2008年度からは、「子どもの健全育成への貢献」をCSR・社会貢献活動の重点分野と位置づけ、さまざまな活動を全国で実施してまいりました。

2012年度からはさらに、本活動展開が5年目を迎えることをふまえ、「子どもの健全育成」に向けた活動の総称を「子どもの明日 応援プロジェクト」と定め、改めて、子どもの健やかな成長を総合的に応援する活動として展開しています。

「子どもの明日 応援プロジェクト」を推進する背景

お客さまが私たちと保険契約を結ぶ背景には「ご家族への思い」があり、こうしたお客さまの「家族愛」を理解して大切な子どもたちを守る手助けをすることこそ、生命保険会社にふさわしい社会貢献活動だと考えています。その思いから、私たちは「子どもの明日 応援プロジェクト」を通じ、次世代を担う子どもたちの健やかな成長とその環境づくりに貢献していきたいと考えています。

「子どもの明日 応援プロジェクト」の全体像

大学・高校 専門学校生等					
中学生	「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動 「地域安全マップづくり教室」	特別支援 学校の子 どもた ちに 生の音 楽を 届ける 「ふれあい コンサート」	音楽授業 「未来を奏 でる教室」	海の 環境工作教室 全国小中学校 児童・生徒 環境絵画 コンクール協賛	親をなくした 子どもたちの進学と 心のケア支援 「あしなが チャリティー & ウォーク」
小学生	新小学一年生への 黄色いワッペン贈呈				全国の 支社・営業所 法人部 本社各部 関連会社 それぞれが NPOや自治体 等と連携して 行なう 地域貢献活動
就学前 出産前	助産師育成支援 「Hello! Baby奨学金 プログラム」				
	子どもの命・安全 を守る	音楽を通じた 情操教育	環境意識の 醸成	遺児の 進学支援	その他各種の 支援

「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動

子どもの明日 応援プロジェクト

子どもたちが登下校中に事件に遭う事態を防ぐために、登下校の時間帯に地域で営業活動をしている当社としてできることはないか。そのような思いから、2006年6月から明治安田生命労働組合と連携して「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動に取り組んでいます。

この活動で、MYライフプランアドバイザーは、地域で営業活動をするときにネームタグを携行して地域防犯への意識を高めています。これには犯罪行為へのけん制効果も期待されています。また、不測の事態に備えて防犯笛を携行し、危険を察知した場合などにはただちに地域行政や近隣へ情報を伝達して連携できる態勢をとっています。



ネームタグ・防犯笛

“安心安全の輪を広げよう”をテーマに子どもを犯罪や災害から守る地域づくりをめざす「だいじょうぶキャンペーン(※)」に2007年10月から協賛しています。

このキャンペーンの一環として、2008年から当社が主催して支社での「地域安全マップづくり教室」を実施しています。

▶「地域安全マップづくり教室」P110

※だいじょうぶキャンペーン

「だいじょうぶキャンペーン実行委員会」(会長 國松孝次<元警察庁長官、認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク理事長>)が主催するキャンペーンです。



労使一体による地域への貢献を通じて社会の一員としての責任を果たしていきたいと考えています

明治安田生命労働組合

この活動は、上部団体である生保労連の呼びかけのもと、「子どもの命・安全を守るために地域への貢献を」という趣旨で、2006年6月以降、会社と明治安田生命労働組合が一体となって推進しており、子どもたちの登下校時に地域で営業活動を行なう私たちにふさわしい貢献活動と考えています。

今後、当組合としても、地域への貢献を通じて社会の一員としての責任を果たせるよう積極的に推進・支援していきたいと考えています。

地域安全マップづくり教室

子どもの明日 応援プロジェクト

「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動を発展させて、2008年から「地域安全マップづくり教室」を開催しています(後援:だいたいようぶキャンペーン実行委員会、協力:NPO法人地域安全マップ協会)。

「地域安全マップづくり」は「犯罪機会論(※)」を応用した教育プログラムであり、犯罪が起きやすい「場所」を子どもたちが自ら見極め、危険を回避できるようにしようというものです。考案者である立正大学の小宮信夫教授らが、全国各地で教育機関や警察と連携しながら普及を進めています。

地域安全マップづくり教室は、地域の親子での参加を公募・開催するほか、小学校を訪問し授業の一環として開催しています。参加者は、講義とフィールドワーク、マップづくりを通して「危険な場所」を避けるための考え方を学びます。「危険な場所」の説明が「入りやすい」「見えにくい」という二つのキーワードでなされ、子どもたちにも容易に理解できます。また、親子で参加の場合は、子どもたちがマップづくりに取り組んでいる時間を利用して、保護者の方向けのセミナーを開催しています。

これからも、地域の安全について考え、学ぶ機会として、引き続き全国各地で開催していきます。

※犯罪機会論

人に犯罪の機会を与えないことによって犯罪を未然に防止しようとする考え方。犯罪傾向のある人の人格を改善しようとする「犯罪原因論」の限界を認識した欧米諸国で主流となっています。



小宮教授による講義の様子



フィールドワークの様子



マップ作りの様子



完成したマップ



保護者向けセミナーの様子

VOICE 参加者

親子で防犯について楽しく学ぶことができました

最初は「地域安全マップ」と聞いて、何をするんだろうと思いながら参加しましたが、小宮先生のお話を聞いて、景色を見ることで危険な場所が見分けられるようになり、親子ともども大変勉強になりました。教室で学んだ後は、実際に、子どもと危険な場所についていろいろ話をしながら、自宅周辺の安全マップづくりに挑戦しました。マップづくり自体がとても楽しく、また、実際に作ってみることで、自宅周辺にも危険な場所がたくさんあることに改めて気づかされました。日頃は地域防犯についてあまり考える機会がありませんでしたが、この機会に親子で楽しく学ぶことができ、とても良かったです。



高知県在住
井上 麻衣子さん・姫七ちゃん・海生くん

VOICE 講師

すべての親子に、正しい防犯知識と安全ノウハウを届けたい

世界中で日本だけが不審者に注目した防犯対策を展開しています。しかし、見た目で区別できない不審者に注目していても、犯罪被害を未然に防止することはできません。そこで、見た目で分かる危険な場所(景色)に注目する「地域安全マップづくり」が必要になるのですが、そういう視点からのマップづくりは、まだほとんど普及していません。

明治安田生命主催の「地域安全マップづくり教室」は、こうした現状を打破するものです。この教室のおかげで、これまで地域安全マップの本当の姿に触れることができなかった親子も、正しい作り方を学ぶ機会を得られるようになりました。これからも、すべての親子に、正しい防犯知識と具体的な安全対策が届くように、この教室を全国各地で開催していただきたいと望んでいます。



立正大学文学部
社会学科教授
(社会学博士)
小宮 信夫 氏

「愛と平和のチャリティーコンサート」と「未来を奏でる教室」

子どもの明日 応援プロジェクト

当社では愛と平和の祈りを込めたチャリティーコンサートを毎年開催しています。また、コンサートとあわせて開催地近郊の小・中学校にて、作曲家 三枝成彰氏による音楽授業を開催し、音楽を通じて子どもたちの情操教育のお役に立てるよう取り組んでいます。

2013年度は全国各地で5回開催しました

2009年度より開催数・地域を拡大して実施している「愛と平和のチャリティーコンサート」。2013年度は埼玉県、群馬県、富山県、兵庫県、和歌山県の5カ所で開催しました。ご来場いただいたお客さまには本コンサートの音楽監督である三枝成彰氏による楽曲解説とソリストによる演奏をお楽しみいただきました。



チャリティー募金は全国各地のNPOに寄付を行います

各会場にて実施しているチャリティー募金は、5会場合計で1,675,739円となりました。このチャリティー募金は、公益社団法人日本フィランソロピー協会を通じ、子どもの健全育成や環境保全等に取り組んでいる全国のNPO等へ寄付します。2013年度は昨年に引き続き、東日本大震災で被災した子どもたちの支援のために活動しているNPOへ寄付しました。

＜寄付を行なったNPO＞

活動地域	寄付先
岩手県	特定非営利活動法人 ハックの家
岩手県	特定非営利活動法人 いわて子育てネット
宮城県	特定非営利活動法人 地球の楽好
宮城県	特定非営利活動法人 アスイク
福島県	特定非営利活動法人 あぶくまエヌエスネット
福島県	特定非営利活動法人 郡山ペップ子育てネットワーク

三枝成彰氏による音楽授業「未来を奏でる教室」

愛と平和のチャリティーコンサートの公演とあわせて開催地近郊の小・中学校にて、三枝成彰氏による音楽授業「未来を奏でる教室」を実施しました。クラシック音楽の特徴や歴史を解説しながら展開する授業は、子どもたちの音楽そのものに対する興味・関心を呼び起こす内容となっています。



2013年度に音楽授業を開催した学校

開催日	学校名	学年	所在地
2013年9月6日	大宮東中学校	1年生	埼玉県さいたま市
2013年9月12日	手柄小学校	6年生	兵庫県姫路市
2013年10月16日	横田小学校	5～6年生	富山県高岡市
2013年10月23日	西浜中学校	1年生	和歌山県和歌山市
2013年10月31日	若宮小学校	3～6年生	群馬県前橋市

なお、「愛と平和のチャリティーコンサート」と「未来を奏でる教室」は2013年度文化庁の後援をいただいております。

海の環境工作教室

子どもの明日 応援プロジェクト

「海の環境工作教室」の開催

従業員や家族、地域のお客さまがボランティアで海岸清掃を行ない、清掃を通じて収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミなどの漂着物等を使ってアート作品を制作する「海の環境工作教室」を開催しています。この工作教室は、NPO日本渚の美術協会(※)の協力を得て、2007年にスタートしたもので、子どもたちが自然に対する思いを育む場として実施しています。2013年度は全国4カ所で開催し、468人が参加しました。収集したゴミ等の量は合計で16,830kgに達しました。工作教室では“私の好きな生きもの”をテーマとして240作品が生まれました。



海の環境工作教室 開催状況(2013年)

開催日	会場	所在地	参加人数
2013年 4月	三浦市三戸海水浴場	神奈川県三浦市	100人
2013年 5月	大田区羽田空港滑走路外側海岸	東京都大田区	84人
2013年 9月	沼津市大諏訪片浜海岸	静岡県沼津市	150人
2013年 12月	坂出市沙弥島海水浴場	香川県坂出市	134人

※NPO日本渚の美術協会は海岸漂着物を「海からの贈り物」と称し、アート創作を手段として海浜美化啓発活動を行なっている特定非営利活動法人。

なお、8月3日には小学生の親子22組50人が参加して夏休み親子環境工作教室を開催しました。ガラスや貝殻を用いてシーボーンアート作品の制作に親子で協力しながら取り組みました。「ほたての船に乗った私の好きな生きもの」と「ヤシの木が生えた島」をテーマに作品を制作しました。



VOICE NPO法人代表

思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えることを願っています

今、海がゴミの最終到達地になったようで「海の悲鳴」を感じます。私たちは「美しい海を次世代に引き継ぐために」海岸清掃とともに、漂着物を利用したアート創作を手法として、海の美化啓発活動をしています。この活動を通じて、海に対する優しい思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えてくれることを願っています。



NPO日本渚の美術協会
会長
本間 清 氏

第7回「シーボーンアート展」の開催と「私の好きな生きもの」コンテストの実施

シーボーンアート展は海岸の清掃活動を通じて収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミ等の漂着物を材料として制作したアート作品を展示し、海の環境美化を訴えるものです。

2013年7月28日～8月25日にかけて、第7回シーボーンアート展「宝島をさがしに行こう!!」を丸の内 MY PLAZAで開催しました。会場ではNPO日本渚の美術協会の会員が制作したシーボーンアート作品が展示されたほか、2012年10月～2013年5月に開催した海の環境工作教室で当社の従業員・家族や地域のお客さまが制作した作品の中から選ばれた作品65点を対象に、“「わたしの好きな生きもの」コンテスト”を実施しました。



2013年 グランプリ 準グランプリ NPO賞

👑 グランプリ

秋山 哲平さん(小1) 神奈川県三浦市三戸海水浴場会場



くじゃく姫とMr.ポテトヘッド

本人のメッセージ

グランプリにえらんでくれて、ぼくはとてもうれしいです。Mr.ポテトヘッドのかおとくじゃく姫の羽を見てください!!

日本渚の美術協会からのコメント

自然界の漂着物を創造性豊かに組み上げたストーリー性のある作品です。オチャメな表情そのままにコミックの世界から飛び出して、見る人に語りかけているようなとても楽しい作品です。

👑 準グランプリ

関野 菜央さん(小3) 神奈川県足柄下郡湯河原町吉浜海岸会場



花

本人のメッセージ

海でひろった貝や木がかわいいお花になるといいな~と思ってつくりました。

日本渚の美術協会からのコメント

優しさあふれるお花が出来ましたネ♪自然の色を上手に組み合わせせてコンパクトにまとめてきれいに仕上がっています。可愛らしさが表現されてとても美しく可憐な作品です。



準グランプリ

和田 真実さん(5才) 東京都大田区羽田空港滑走路外側海岸会場



ほうせき☆きりん

本人のメッセージ

ガラスのはへんがキラキラの宝石に見えて探
していてとても楽しくなりました。宝石を沢山
つけたキリンができあがりました。

日本渚の美術協会からのコメント

自然の流木や貝がらを上手に組み合わせて
います。上から見下ろす大きなキリンさんの
力強い目力に迫力を感じます。繊細な中にも
バランスの良い作品で、デザイン性も抜群で
す。



準グランプリ

猪瀬 大誠さん(小3) 神奈川県三浦市三戸海水浴場会場



たいせいカブト

本人のメッセージ

海がんで角のような形の木をひろったので、大好きなかぶと虫
をつくりました。羽にする貝をさがすのがたいへんでした。

日本渚の美術協会からのコメント

作者は虫が大好きなんでしょう。昆虫の王様かぶと虫が力強く
できあがりました。攻撃的な角やシッカリ大地を這う足も上手
に仕上げて、今にも動き出しそうな迫力満点な作品です。

NPO日本渚の美術協会賞

石井 暖規さん(5才) 東京都大田区羽田空港滑走路外側海岸会場



森の中のライオン

本人のメッセージ

オレンジの丸い反射板をみつけ、ライオンの顔を思い浮かべ
アイロンビーズで目と鼻、歯にみえる貝で口をつけました。ポ
ンドがベタベタして大変だったけど楽しかったです。

日本渚の美術協会からのコメント

お昼のお弁当トレイを上手に使って森のジオラマが上手く表現
できています。ゴミになる廃物を利用して「私の好きな生きもの
＝ライオン」を作ってくれました。ライオンの表情が豊かで優し
く微笑みかけてくれています。

ふれあいコンサート

子どもの明日 応援プロジェクト

日頃コンサートに行く機会の少ない障がいのある子どもたちに「生の音楽」を楽しんでもらう目的で、ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげき氏による手作りのコンサート「ふれあいコンサート」を全国各地の特別支援学校等で開催しています。

2013年に30年目を迎えました

第1回目のコンサートは1984年に秋田療育園で開催し、2007年の新潟県の小出養護学校で100回目のコンサートを迎えました。30年目を迎えた2013年は、10月7日から10月11日にかけて福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県の特別支援学校5校で開催しました。30年間の累計訪問学校数は131校になりました。

コンサートでは、鳥塚しげき氏を中心に「幸せなら手をたたこう」、「ドレミのうた」やアニメメドレーなどが披露されました。子どもたちも手作り楽器でリズムを取ったり、歌ったり、踊ったり、また舞台に出てきて、いろいろな動物の鳴き声をしてみたりと、どの会場でも大変盛り上がりしました。

なお、「ふれあいコンサート」は従業員の募金で運営されています。



VOICE 出演者

子どもたちの笑顔のために歌い続けます

私は音楽の力を信じています。音楽には素晴らしい力があります。悲しい時には慰めてくれ、楽しい時には心をウキウキさせてくれます。私は子どもたちを楽しませるだけではなく、音楽の持つ力で子どもたちに勇気や希望を持ってもらえるよう、この30年間コンサートを続けてきました。私のパフォーマンスに子どもたちは満面の笑みで応えてくれます。これからも子どもたちの笑顔のために歌い続けます。



歌手
鳥塚 しげき 氏

TOPIC

30周年スペシャル「ふれあいコンサート」を開催

「ふれあいコンサート」の開催30周年を記念して、2013年度に2回のスペシャルコンサートを開催しました。

2013年9月28日には、丸の内MY PLAZAホールにて、東日本大震災で県外避難を余儀なくされた親子のみなさまを中心に未就学児・小学生の親子を招待しました。

2014年1月14日には府中グリーンプラザけやきホールにて、地域の特別支援学校や障がい者福祉施設から児童・生徒のみなさま等を招待しました。

いずれのコンサートも、歌やパフォーマンスに加え、30周年スペシャルコンサートならではの、生バンドによるすばらしい演奏や歌に合わせた楽しい映像もあり、会場は大いに盛り上がりました。



あしながチャリティー&ウォーク

子どもの明日 応援プロジェクト

あしなが育英会のご協力のもと、全社共通の社会貢献活動として「あしながチャリティー&ウォーク」を開始しました。当社が独自に主催する「あしながMYウォーク」の開催、あしなが育英会(あしながPウォーク10実行委員会)が全国各地で開催する「あしながPウォーク10」への参加、そしてチャリティー募金を通じて、遺児支援に取り組んでいます。

約3万8千人の従業員等が参加しました

3年目となる2013年度は9～12月に、全国63カ所で昨年を大きく上回る約1万2千人がウォーキングとチャリティー募金を行なうとともに、当日ウォーキングに参加できなかったチャリティー募金参加者を含め、総勢約3万8千人の役員・従業員等(※)がこの活動に参加しました。“親をなくした子どもたちに進学之梦と心のケアを”を合言葉に遺児支援に取り組みました。

・※この活動には、東京海上日動火災保険株式会社のみなさま(約1.4千人)をはじめ、活動趣旨に賛同いただいた社外の方(当社従業員の家族、知人・友人など)にも参加いただきました。



全国各地でチャリティーウォークを実施



釧路



青森



仙台



東京



大船



富山



名古屋



京都



岡山

チャリティー募金の寄付を通じて被災地支援

あしなが育英会への寄付

2013年度の活動を受けて、2014年1月には、東日本大震災で親をなくした子どもたちの心のケア支援(東北レインボーハウスの建設)等を目的に、あしなが育英会にチャリティー募金1,254万3,186円を寄付しました。



被災地3県の遺児支援基金等への寄付

2013年度は新たに、岩手県、宮城県、福島県が東日本大震災で親をなくした子どもたちが社会人として独立するまで、息の長い支援を行なうため設置した基金等(※)へ、3県合計で362万860円を寄付しました。

・※東日本大震災みやぎこども育英募金(宮城県)、いわての学び希望基金(岩手県)、東日本大震災ふくしまこども寄附金(福島県)

「黄色いワッペン」の贈呈

子どもの明日 応援プロジェクト

1965年以来、新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」を贈呈しています。

新入学児童の交通安全を願って

50回目となった2014年は、全国112万人の新入学児童に「黄色いワッペン」を贈呈し、これまでに配られたワッペンは累計で約6,111万枚となりました。長く継続している事業のため、親子二代にわたって着用しましたとの声が多く聞かれるようになりました。

「黄色いワッペン」には、2014年度の交通安全スローガン〈内閣総理大臣賞(最優秀作)こども部門〉『にっぽんを じまんしようよ 事故ゼロで』が印字され、子どもたちの交通安全意識を育むとともに、保護者やドライバーの方々の注意を喚起しています。また、「黄色いワッペン」は登下校中に発生した交通事故を対象とした、保険金額が最高50万円の交通事故傷害保険が付されています。

3月から4月の入学シーズンに全国各地で贈呈式が開催されました。

共同実施団体：(株)損害保険ジャパン、第一生命保険(株)、(株)みずほフィナンシャルグループ



チャリティーイベント

子どもの明日 応援プロジェクト

2001年から毎年、愛と平和の祈りを込めたチャリティーコンサートを公益財団法人東京YMCAと実施しています。

2014年1月20日、丸の内MY PLAZAホールにおいて「ニューイヤーの夕べ」を開催しました。

当日は、日本フィルハーモニー弦楽四重奏の演奏とゲストに迎えたソプラノとのアンサンブルをお楽しみいただきました。約220人の観客からは、「弦楽四重奏とソプラノのアンサンブルを堪能しました」「ソプラノの豊かな表現力が素晴らしかった」などの感想がありました。

なお、当日会場で行なったチャリティー募金の合計178,135円は東京YMCAを通じ、バングラデシュの子どもたちの教育支援や村の診療所運営支援等のため寄付しました。



Hello! Baby 奨学金プログラム

子どもの明日 応援プロジェクト

明治安田生命は、子どもたちの健全育成を目的とした社会貢献活動を続けていますが、その一環で、とくに少子化社会対策に資する活動として、「助産師をめざす人のための奨学金制度(「Hello! Baby 奨学金プログラム」)」を支援しています。

助産師をめざす人を支援

少子化がいつそう進展するなか、周産期(分娩周辺期)の医療安全に向けて、国や地方自治体においてさまざまな対策が進められていますが、とりわけ産婦人科・産科医師の減少、助産師の絶対数の不足など産科医療スタッフの確保が大きな課題となっています。

こうしたなか、当社は、公益社団法人日本助産師会が実施する、助産師をめざす人のための奨学金制度の趣旨に賛同し、「Hello! Baby 奨学金プログラム」として、こども保険の契約件数に応じた金額を、毎年、当社経費のなかから寄付しています。

この奨学金を通じて、ひとりでも多くの助産師が誕生し、妊婦の方がどこにいても、より安心でより安全なお産ができる環境づくりに貢献していきたいと考えています。

- 対象保険商品
(現在、販売中の商品)



なお、上記に加え、これまでに当社が販売したすべてのこども保険の有効中の契約件数を対象とします。

VOICE 公益社団法人代表

助産師不足が深刻な現在、このプログラムは、学生の福音となっています

明治時代から産婆として地域の母子保健に貢献してきた助産師は、昭和26年の7万7千人から現在は3万人台と、大きく減少しましたが、一方で育児不安から産後うつになる人や子ども虐待の増加など、出産・子育てを取り巻く環境は、助産師を必要としています。

産科医師不足が社会問題になっていますが、助産師不足も深刻です。こうしたなか、助産師学生への修学支援制度は重要であり、貴社のプログラムは勉学に専念する助産師学生の福音となっています。



公益社団法人 日本助産師会
会長 岡本 喜代子 氏

●「公益社団法人 日本助産師会」は、1955年(昭和30年)の創立以来、母子保健推進のため全国の助産師の連携をはかり、助産師業務の水準を維持し、その改善・向上につとめている団体です。

●助産師の就業者数は、近年徐々に増加し、約3万3千人(2011年12月現在)となっていますが、1分娩施設あたりの必要人員を勘案すると大幅な増加が必要とされています。

少子化対策の取組み「Hello! Baby 奨学金プログラム」が「第5回キッズデザイン賞【優秀賞】」を受賞

NPOキッズデザイン協議会主催、経済産業省後援による「第5回キッズデザイン賞(2011年)」において、当社の少子化対策に資する社会貢献取組み「助産師育成支援『Hello! Baby 奨学金プログラム』」が、“子どもたちを産み育てやすいデザイン”と認められ、「優秀賞(ソーシャルキッズサポート部門)キッズデザイン協議会 会長賞」を受賞しました。

この受賞は、「少子化対策の重要な視点として、助産師などの産科医療スタッフの確保という命題に取り組んだ意欲的な試みである。助産師をめざす学生は実習等によって費用もかかり、時間的な融通もききにくい。こうした奨学金制度は社会的な意義は高い。保険という本業を通じたCSRの取組みとして、出産・子育てに寄与する点を高く評価する」との観点で選考いただいたものです。

「キッズデザイン賞」とは、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」、「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」、「子どもたちを産み育てやすいデザイン」の3つを顕彰する制度です。子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動など幅広い分野を表彰の対象としており、受賞作品には、「キッズデザインマーク」の使用が認められます。



全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクールの協賛

子どもの明日 応援プロジェクト

当社は1997年より「全国小中学校環境教育研究会」が主催する絵画コンクールに協賛しています。

本コンクールは、“みんなでつくろう住みよい町”、“みんなで守ろう大切な自然”をテーマに、全国の小中学生から環境に関する作品を募集しています。

2013年度は小学校からは44校1,012作品、中学校からは59校382作品の計1,394作品の応募がありました。

当社からは「小学校の部」および「中学校の部」の各1作品に明治安田生命特別賞を贈りました。



「明治安田生命特別賞」受賞作品
(小学校の部)



「明治安田生命特別賞」受賞作品
(中学校の部)

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

子どもの明日 応援プロジェクト

三菱広報委員会(当社は三菱グループの一員として参加)では、1990年からアジアの子どもたちの相互理解と交流を目的に、「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を実施しています。



アジア各国の子どもたちから絵日記を募集し、その作品を通してより深くアジアを理解することや、アジアの子どもたちの国際交流の輪を広げることを目的に実施しています。

地域社会への貢献をめざして

明治安田生命は、地域に根ざした良き企業市民として地域とのパートナーシップを大切にし、地域とともに発展することを願っています。そして会社はもちろん地域の住民の一人である従業員もボランティア活動を通じて地域の活動に参画しています。

全国各地の地域貢献活動



全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズにあわせた社会貢献活動を展開しています。

従業員募金による支援・活動 (明治安田生命社会貢献活動基金)



従業員の募金を原資としており、地域貢献活動のための活動や人道上の災害支援のための寄付を行ないます。

明治安田生命 関西を考える会



関西の歴史・文化に関する冊子を毎年刊行しています。

地域支え合い助成制度



市民が地域で支え合う仕組みづくりを担う団体を支援しています。

ジョン万次郎記念センターの支援



日米の市民の草の根交流を推進する「ジョン万次郎記念センター」を支援しています。

スペシャルオリンピックス日本の支援



知的発達障がいのある人たちにスポーツ活動を提供し社会参加を応援しているスペシャルオリンピックス日本を支援しています。

全国各地の地域貢献活動

全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズにあわせた社会貢献活動を展開しています。

従業員参加による活動

当社は、「行動規範」の一つに“地域社会への貢献と環境への配慮”を掲げ、所属ごとに、従業員が積極的に運営、参加する社会貢献活動を推進しています。

内容は、地域清掃、献血運動、使用済切手寄贈など身近なものから、ペットボトルキャップ回収などお客さまにもご協力いただいての活動、老人ホームへの訪問・寄贈、障がいのある方への支援、マラソンボランティア、環境保全活動等々、地域に根ざしたさまざまな活動に取り組んでいます。



ボランティア活動の奨励

こうした所属の自主的な取組みをより活性化し、従業員の地域・社会貢献活動意識の向上を図るため、年度を通じて、優れた活動を行ない社会的な信頼を高めた所属を表彰する「ボランティア表彰」制度を設けています。2014年4月には社外専門家を加えた選考メンバーが、右の選考基準をもとに総合的に評価し、第5回の表彰を行ないました。

「ボランティア表彰」の選考基準

- 多くの所属員の参加・協力
- 地域社会に根ざした活動(自治体やNPOとの連携等)
- 継続性
- 活動内容の独自性、公益性
- その他(地域からの評価等)

「第5回ボランティア表彰(2013年度)」受賞所属の活動

福井の子どもたちの郷土愛を育てる“学ぼうシリーズ”を実施 <大賞 福井支社>

福井の自然、歴史、芸術、産業等をテーマに子どもたちが体験学習を通じて、楽しみながら郷土への愛情を育む活動。年間を通じて5回の“学ぼうシリーズ”を実施しました。

- 1回目・・・6月に福井の自然をテーマに有名な「ほたるスポット」情報を提供し、ほたる鑑賞会を開催しました。
- 2回目・・・8月に福井の歴史、偉人の話や戦争、地震の体験を語り部から学び、合わせてリサイクル工作教室を開催しました。
- 3回目・・・11月に福井の伝統工芸である越前和紙の伝説を手づくりの紙芝居で紹介し、伝統工芸士のお話や紙漉き体験、ちぎり絵作製を実施しました。
- 4回目・・・1月に福井の食文化と題して、福井の代表的な食である「越前おろしそば」について、語り部よりその歴史と地産地消の大切さを学び、そば打ち体験を実施しました。
- 5回目・・・3月に福井の和について、福井で盛んな百人一首を身近に感じてもらうため、百人一首大会を実施したほか、親子で郷土菓子づくり、茶道体験を実施しました。



VOICE

福井の子どもたちの郷土愛を育てよう！ 5回の“学ぼうシリーズ”を開催

2013年度、福井支社では「子どもの明日 応援プロジェクト」の一環として、福井の「自然・歴史・文化・産業」をテーマに、体験学習を通じ、子どもたちの「郷土愛」を育むお手伝いができないか考え取り組みました。福井だからこそ“感じる・体験できる”ことを取り上げ、①自然「ほたる鑑賞」、②歴史「福井の偉人・福井空襲」、③伝統工芸「越前和紙」、④食文化「越前おろしそばの歴史」、⑤福井の和「百人一首」など、親子で楽しく学べる企画を実施しました。参加された子どもたちからは、福井の素晴らしさがよく分かったと喜んでいただきました。私たちも多くの子どもたちとふれあうことができ、たくさんの笑顔そして感動をいただくことができました。今後も福井の地域に根ざした福井ならではの活動に所属員全員で取り組んでいきたいと思います。



福井支社長
矢野 弦一

支社と全営業所が独自の活動を企画・実施 <優秀賞 千代田支社>

千代田支社では、支社と全営業所が特別養護老人ホーム、児童養護施設でのボランティア活動や被災地への日用雑貨の寄贈、ホスピタリティーハウスの支援など、独自に地域性等を考えてボランティア活動を展開しました。その活動の一例としては、年間を通じ児童養護施設への支援・交流を行ない、古本等の回収・売上による自転車寄贈、施設高校生の本社見学、施設理事長による児童養護の現状をテーマとした講演等を実施しました。また、「生きること」をテーマに難病支援のための講演会、コンサートを実施し、同時に実施したチャリティー募金(職員・アドバイザー等330人が参加)を寄付しました。



自然に触れあう「親子田植え教室」を開催 <優秀賞 さいたま支社>

子どもたちに自然に触れあってもらうため「親子田植え教室」を開催、5月には「田植え」、7月には「草取り」、9月には「稲刈り」体験を実施しました。それぞれの体験に加え、カエルやザリガニを捕まえたり、竹細工教室、障子張り教室等を行ない、子どもたちは遊びながら楽しく自然に触れあいました。活動が終わった後、収穫したお米は精米のうえ、参加者の家庭に配布しました。



支社と全営業所で「社会福祉施設への貢献活動」を実施 <優秀賞 金沢支社>

支社と全営業所が、地域にある福祉施設や老人ホーム、児童養護施設等でお話し相手になったり、ゲームを行ったりして老人やお子さんと交流しました。また、石川県の豊かな自然を守ることを目的として2010年よりほたる観賞会を実施しています。2013年度は地域の方100人が参加しました。さらに、全営業所において、あさがおやゴーヤ等の植物を育て、グリーンカーテンとして、取引先企業や保育園等に設置し、環境保全に努めるとともに、地域との交流を深めました。



児童養護施設を継続訪問、子どもたちとの“絆を深める”交流を実現 <優秀賞 融資部>

2012年度から児童養護施設を継続訪問しています。毎月の誕生日会に加え、かるた大会、花火大会、ハロウィンパーティーなどのイベントを企画・開催しました。この活動には所属の全員が参加しました。このほか、バザーには500品以上を出品、12月のクリスマス会では所属内で集めた募金を寄付し、子どもたちからお礼のクリスマスカードをもらうなど、“絆を深める”交流を実現しました。



高齢者や子どもとの継続的な交流を実施 <優秀賞 人事部>

子ども・介護一体型施設「こうほうえん」でのボランティア活動を行ないました。高齢者施設での夏祭りイベントのお手伝いと手づくりうちわの寄贈、高齢者の方のお話し相手、夕食のお手伝いを行ったり、保育園の子どもたちのお見送り等を行ないました。また、水曜日の定時退社日を利用し、「こうほうえん」の清掃活動に参加、「こうほうえん」スタッフによる車いす講習を受講し、ボランティア活動に役立てることができました。



地域イベントでゴミ分別や清掃活動のボランティア <立川支社>

2012年度に引き続き、8月に八王子まつり(来場者70万人超)の会場ゴミステーション管理と清掃活動を実施しました。支社所属員に加え、今年は社内の他の所属にも呼びかけ、総勢91人が参加しました。祭りが最高潮になる土曜夜6～9時まで、休む暇なく汗だくで活動し、主催の八王子市役所や来場者から感謝の声をいただきました。



東北復興、応援隊！ <札幌支社>

支社職員でカラフルなアクリルタワシを510個を手編みし、応援メッセージを貼り、被災地の幼稚園や保育園等に寄贈しました。このほかに、仙台の銘酒購入、南相馬市の企業からの石鹸購入等を実施しました。またブックシェアリングを2009年度より継続実施しており、2013年度は、1,126冊(5年で27,993冊)を、NPOを通じて、地元の図書館・保育施設・子ども支援グループや被災地に寄贈しました。



介護施設等でのボランティア活動 <営業企画部>

毎月第3土曜日をボランティア活動日として決め、年9回のべ90人が千代田区内の特別養護老人ホームを訪問し、枕カバー・シーツ交換、汚物処理のためのゴミ袋作成・新聞紙準備等を行ないました。また、所属員全員が参加して、昼休みに「クリスマスリース」を作成し寄贈しました。同施設でのボランティアは2010年度から4年連続実施しました。



中学校におけるキャリア教育への支援

支社での職場体験学習の実施例 <熊谷支社>

熊谷支社は、熊谷市より2013年2月に認定された「熊谷市子育て支援優良企業」として、地域の子育て支援活動の観点から、熊谷市立富士見中学校の職場体験受入れを実施しました。本取組みは、同中学校から働くことの目的や意義を考え、職業に対する知識や理解を深めて自己の考え方や価値観を見直し、主体的に進路選択を進める態度を育てることをねらいとした職場体験活動を受け入れてほしいとの依頼を受け実施したもので、中学1年生4人をお迎えして3日間運営しました。生命保険の仕組みや役割および当社のさまざまな取組みについての学習、支社・営業部の見学と業務体験、さらに当支社が取り組むプルタブ回収作業の手伝いや、電話対応マナーや手話の研修を行ないました。



スポーツ教室の開催

当社の運動部(テニス部、ボート部、アメリカンフットボール部)では、地域貢献や子どもの健全育成を目的に各地でスポーツ活動を行なっています。

<テニス部>

聴覚に障がいのある方たちのためのテニス教室を2008年度から毎年開催しています。



<ボート部>

青森県、東京都、岐阜県、滋賀県、大分県において、中学生、高校生を対象としたボート教室を開催し、約200人の方に参加いただきました。



<アメリカンフットボール部>

アメリカンフットボール部はピンクリボン運動に賛同し、ピンクリボン月間である10月にこの運動に積極的に取り組んでいます。主な活動は、試合会場のお客さまに乳がんに関するパンフレットの配布や、受付でのパネル掲示を通じての意識啓蒙活動です。



※活動内容および所属名等は2013年度のものを掲載しています

従業員募金による支援・活動(明治安田生命社会貢献活動基金)

地域貢献活動を支援する目的で、従業員による募金を原資とした明治安田生命社会貢献活動基金を2004年に創設しました。明治安田生命社会貢献活動基金は、従業員の地域貢献活動への参加に対する支援や国内外の人道上の災害救援、復興支援のための寄付を行なっています。

東日本大震災被災地支援に向けたボランティア活動

東日本大震災からの復興支援は、長期的かつ被災地のニーズに即した取組みが大切であると考え、岩手県、宮城県、福島県のNPO等と連携し、従業員が継続・反復的に被災地に赴きボランティア活動を行なう「従業員参加型復興支援プログラム」を実施しました。

2013年度年間を通じ、27回実施し、238人が参加しました。主なプログラム内容は次の通りです。

「花未来」ボランティア

NPO法人「地域の芽生え21」は瓦礫置場となっていた仙台空港滑走路の隣接広場にて、大輪のひまわりで「Thank you!」の文字を大空に向けて発信しようという活動を行なっています。NPO法人や地元の方々、ボランティア参加者が一緒になって「東日本大震災の復興支援に携わった国内外のみなさんに感謝のメッセージを伝えたい」という想いがこめられています。当社からは8回参加し、整地活動、ひまわりの種まきと苗植え、そして雑草刈り等を行なったほか、石巻市の大川小学校での花壇作り等を行ないました。



「ぼんた山元気楽校」ボランティア

NPO法人「あぶくまエヌエスネット」は、放射能の影響により外遊びのできない子どもを対象に、福島県内で放射線量の低い山間地で「ぼんた山元気楽校」を開催しています。当社からは8回参加しました。ボランティア参加者は、子どもたちが安全かつ快適に活動できるようサポートしながら、子どもたちとボール遊び、プール、じゃがいも収穫、炊事、掃除等を行ないながら、集団生活のお手伝いをしました。



「えほんバスのえほん広場」ボランティア

NPO法人「地球の楽好」は、絵本を「えほんバス」に乗せて、被災地の子どもたちに絵本をプレゼントしたり、工作などのワークショップの活動を行っています。当社からは、この「えほんバスのえほん広場」ボランティアに5回参加し、宮城県内の保育園や小学校を訪問、絵本をお届けするとともに読み聞かせや貼り絵のワークショップ等で子どもたちと交流の機会をもちました。また、全国から寄贈された絵本や児童書の整理をし、いつでも「えほんバス」が出動できるための作業も行ないました。



人道上の災害救援、復興支援のための寄付の事例

2012年に発生した京都府、福岡県、熊本県、大分県大雨災害に対し、被災地支援・復興のための義援金の寄付を行ないました。2013年には岩手県、秋田県、京都府、滋賀県、山口県で発生した大雨災害、台風災害に対し義援金を寄付しました。



明治安田生命 関西を考える会

1976年以来、地域貢献活動の一環として「ふるさと関西を考えるキャンペーン」を行ない、毎年、関西の歴史・文化に関する冊子を刊行してきました。

活動38年目を迎える2013年は、「探検!発見!関西の近代化遺産」と題して冊子を刊行しました。明治以降の日本の近代化の過程で造られた大阪市中央公会堂、御堂筋、大丸心斎橋店、琵琶湖疏水、同志社大学、北野異人館、生野銀山、旧JR奈良駅舎、紀ノ川橋梁などの関西の建造物や施設216件について、建物自体の価値はもちろん、歴史的背景や携わった人々の興味深いドラマを絡めて、その魅力を紹介のうえ、保存・活用問題など今後のあり方にも触れてみました。



地域支え合い助成制度

地域支え合い助成制度の実施

高齢化の進展に伴い、地域市民が主体的に行なう福祉活動の必要性はとみに増えています。とりわけ市民が地域で支え合う仕組みづくりとその拡充が期待されています。

当社では2001年度より、全国で活動している市民参加型の配食サービス団体に対して、毎年、全国老人給食協力会の審査に基づき、資金助成を行なっています。2013年度からは配食サービスに加え、高齢者の居場所づくりや見守り活動等も助成対象に加え、地域のコミュニティ形成を支援しています。

2013年度は応募155団体から助成先に全国各地の12の市民団体を決定、助成を行ないました。過去13年間で130団体へ助成しました。



ジョン万次郎記念センターの支援

当社は、財団法人「ジョン万次郎ホイトフィールド記念国際草の根交流センター」を支援しています。同財団は1992年に設立され、日米両国の市民が草の根レベルで意見交換をしたり、交流を行なうことを主な目的として事業を推進しています。毎年交互に日米のホスト都市や地域で交流プログラムを開催します。2013年7月には、第23回日米草の根交流サミット島根大会が実施されました。



スペシャルオリンピックス日本の支援

当社は、知的障がいのある人たちにスポーツトレーニングやその成果の発表の場としての競技会への参加を通じて、社会参加を応援する公益財団法人スペシャルオリンピックス日本を支援しています。

支援にあたっては、フレンドシップスポンサーとして行なう資金面での支援のほかに、スペシャルオリンピックス日本や全国各地にある地区組織が行なう活動に、従業員がボランティアとして参加したり、チャリティーイベントの後援等を行なっています。

・ ボランティア活動への参加

「スペシャルオリンピックス日本・岡山地区大会」のボウリング競技の運営ボランティアや、募金協力者とアスリートの双方に贈られるミサガづくりボランティアに参加しました。



・ チャリティーイベントの後援

2012年11月には、冬季世界大会・ピョンチャン日本選手団派遣費用等の資金集めのためのチャリティートークショーが丸の内MY PLAZAホールにて開催されました。当社は本イベントを後援するほか、企画・運営面でも従業員がボランティアで参加しました。



関連財団等の活動

(公財)明治安田厚生事業団の活動



国民の健康増進事業を推進することにより学術の振興および公衆衛生の向上をめざしています。

(公財)明治安田こころの健康財団の活動



おもに「こころの問題」をテーマに乳幼児から高齢者までを対象として幅広い活動をしています。

(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団の活動



音楽分野および地域の伝統文化分野における人材の育成を支援しています。

(株)明治安田生活福祉研究所の活動

介護、医療、健康、福祉、生活設計、生活意識調査および企業の福利厚生を中心とした調査研究を行なっています。

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団の運営への参加

三菱グループで設立・運営している財団で、高齢社会に関わる調査・研究を行なっています。

(公財)明治安田厚生事業団の活動

1962年6月に設立された当事業団は、社会の福祉に貢献するために、長年にわたり健康課題に関する科学的根拠を得るための研究とその成果を普及啓発すべく活動を行ってきました。そして、設立50周年を迎えた2012年には内閣府から公益認定を受け、公益財団法人として新たなスタートを切りました。

現在では、体力医学研究事業、ウェルネス事業、そして健康調査事業の3部門が連携し「三位一体」となって国民の健康増進事業を推進することにより学術の振興および公衆衛生の向上をめざしています。

なお、当事業団ではこれまで東日本大震災で被災された方々に対し健診や健康づくりの支援を行っており、この活動は今後も継続していきます。

体力医学研究事業(体力医学研究所)

国民の健康に関わる諸問題の解決をめざして調査研究を実施するとともに、その成果が広く一般に役立つよう普及活動に努めています。近年では「運動とメンタルヘルス」をメインテーマに、運動を活用した心身の健康増進に関する研究活動を推進しています。

さらに、健康科学分野に関わる若手研究者の支援を目的に、国民の健康増進に役立つ研究への助成を実施しています。

ウェルネス事業(ウェルネス開発室)

体力医学研究事業、健康調査事業の成果を活かして、身近な健康づくりをサポートするプログラムを開発・提供しています。また、自治体や企業、団体等への講演会や講習会等を通じて、科学的な根拠に基づいた健康づくりを提案し、社会に貢献できる健康づくり普及啓発活動を行なっています。

健康調査事業(新宿健診センター)

心と身体の両面から得られる各種調査・人間ドックのデータを活用した調査研究およびその知見の普及啓発を行なっています。体力医学研究事業ならびにウェルネス事業との三位一体による「健診からはじめる健康づくり」をサポートし、疾病の予防・改善をめざしています。

(公財)明治安田厚生事業団の活動



(公財)明治安田こころの健康財団の活動

1965年3月に設立された当財団は、子どもたちの精神面からの健全育成を通じて社会に貢献することを設立の趣旨として、子どもの育成に関する各種相談、専門家育成のための研修講座の開催および研究助成を中心に事業を展開しております。子ども療育相談センター、すこやか育成相談室では年間延べ3,000件の相談を行っております。

研究助成

子ども(乳幼児から思春期・青年期まで)、家族・家庭および高齢者の諸問題についての精神保健・福祉領域の基礎的、臨床的な研究に対し助成を行なっています。また、その研究成果を「研究助成論文集」として刊行しています。

集中講座、夜間講座

教育、保育、心理、相談、医療、保健、司法などの専門分野で活躍する専門家ならびに専門家をめざしている大学院生、大学生などを対象として、「こころの臨床」「発達障害」「子ども」の三つの領域で集中講座(土・日開催)、夜間講座(毎週曜日を決めて、4～6回のシリーズ)を開催しています。

子ども療育相談センター

自閉症をはじめとする発達障がいのあるお子さんへの一人ひとりに応じた療育をご家族と協力してすすめ、成長やライフステージにあわせた継続的な支援を行なうとともに、学校や福祉機関への支援も行なっています。

すこやか育成相談室

お子さんの成長過程での心理的なつまづきや困難が生じたときに、より健やかな成長を支えていくことをめざしてお子さんやそのご家族との相談を行なうとともに、教育機関や医療機関、行政機関との連携も行なっています。

出版・啓発活動

知的障がいや自閉症の人たちのための支援ツールや、教育・指導方法の実践的な取組みを紹介しています。



コミュニケーション支援ボード



見てわかる社会生活ガイド集



自閉症課題百選

(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団の活動

1991年6月に設立された当財団は、生活の質的向上とわが国文化の発展に寄与することを目的に、音楽における人材育成および地域の伝統文化の保存維持ならびに後継者育成に対する助成等を行なっています。

クラシック音楽分野での助成

若手クラシック音楽家の海外留学を支援しています。2013年度には新たに5人が公募で選ばれ、これまでに127人が「海外音楽研修生費用助成制度」を活用して欧米に留学をしました。現在では、このなかから第一線で活躍している多数の音楽家を輩出しています。

また、音楽コンクール開催への助成として、「第82回日本音楽コンクール」作曲部門最優秀者への賞の贈呈を実施しました。

地域の伝統文化分野に関する助成

民俗芸能および民俗技術等、地域の伝統文化の継承活動、特に後継者育成に必要な諸活動を支援しています。

2013年度には新たに、佐賀県の「執行分浮立保存会(執行分鉦浮立)」等42件の助成を行ない、これまでに963件の伝統文化へ助成を行なっています。

本助成を契機に再び活発な活動を開始した伝統文化もあります。



(株)明治安田生活福祉研究所の活動

1991年に設立された当研究所は、急速に少子高齢化が進行するなか、介護、医療、健康、福祉、生活設計、生活意識調査および企業の福利厚生を中心に、調査研究を行なっています。

その成果は、中央官庁からの調査研究の受託、地方自治体の各種福祉関係計画の策定支援、健康保険組合の保健事業への支援、生活意識調査、調査報「生活福祉研究」の発行等を通じて社会に還元しています。

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団の運営への参加

1993年6月に三菱グループ28社とともに設立した当財団は、民間の立場で高齢社会の諸問題に関する実践的な調査・研究活動を行っており、当社はその運営に参画しています。

具体的には、しあわせで活力ある長寿社会の実現に向けて(1)高齢社会における健康・経済・生きがいに関する調査・研究、(2)高齢社会の諸問題に関する意識啓発および活動成果の普及を通じて、問題解決を提言しています。

